

ご自由にお持ち下さい。

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

najyodasu なじょだす Vol.73

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

盛岡赤十字病院広報誌 vol.73

【なじょだす】(岩手の方言)

相手の健康を気づかうなど、「いかがですか」の意味。
当院のシンボルツリーのコナラの木は、正面玄関前にそびえ立ち、
訪れる人々に「なじょだす」と語りかけているかのようです。



令和7年度 盛岡赤十字病院 入社式

研修医2人含め27人が新しく入社しました！
よろしくお願ひします！

特集 次代へバトンをつなぐ
院長ご挨拶
副院長就任挨拶

- 地域医療連携室よりお知らせ
連携医療機関のご紹介
- 連載 医訪人 薬剤部薬剤師

次代へバトンをつなぐ

院長退任のご挨拶

名誉院長 久保 直彦

日ごとに暖かさが増し、雪解けの水がせせらぎとなって流れる季節となりました。皆さまにはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと、このたび定年を迎え、院長を退任することとなりました。在任中は多くの皆さまに支えられ、この日を迎えられることに心より感謝申し上げます。私が院長に就任した2020年4月1日は、世界が新型コロナウイルスの影響で大きく揺れていた時期でした。当院はいち早くコロナ対応を決断し、帰国者・接触者外来の設置から始まり、後には重点医療機関として患者診療に尽力いたしました。2023年5月、新型コロナウイルスは5類へ移行しましたが、その影響はいまだに大きく残っております。この未曾有のパンデミックの中、職員一同と協力しながら尽力できたことは、私にとって何よりの誇りであり、かけがえのない経験となりました。今後も医療に携わり、微力ながら地域医療と社会に貢献していきたいと考えております。

後任には、藤原 純 副院長が就任いたします。藤原先生は、当院の産婦人科医として長年勤務し、周産期医療や婦人科医療の最前線で貢献されてきました。これからも皆さまに一層信頼される病院を目指し、職員一同とともに努力を続けてまいりますので、どうか変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



久保前院長から藤原院長へ院長交代

病院長就任のご挨拶

院長 藤原 純



この4月から院長に就任いたしました藤原です。私が当院に赴任してから、早いもので33年になります。この間、産婦人科医として多くの患者さんと向き合い、たくさんの赤ちゃんを取り上げ、さまざまな婦人科疾患の手術や治療に携わってまいりました。今後は、これまでの経験を活かし、患者さんにとってより良い医療を提供するとともに、社会のニーズに適應した病院づくりに邁進していきたいと考えております。

盛岡赤十字病院は、創立105年という伝統ある病院です。内丸から現在の三本柳に移転してからは38年が経過しました。病院の老朽化や医師不足など、取り組むべき課題は多々ありますが、地域の皆様に必要とされる病院であり続けることを胸に刻み、職員一同知恵を絞りながら取り組んでまいります。来年は、良い病院の指標の一つである「病院機能評価」のバージョンアップを受審する予定です。

また、近年は新型コロナウイルスのパンデミックや繰り返し発生する自然災害に対し、日本赤十字社は迅速に対応してまいりました。当院でも、新型コロナウイルスが5類へ移行するまで感染病棟を立ち上げ、多くの入院患者さんの治療にあたりました。最近では、能登半島地震の際に医療救護班や現地災害本部の調整班を派遣し、私を含め多くの職員が現地に赴きました。また、大船渡の山林火災の際にも、避難所に救護班や心のケア班を派遣しました。こうした医療救護活動は、当院の使命でもあります。時には、急遽診療を休診して救護に向かうこともあるかもしれませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

当院は「地域医療支援病院」に認定されており、地域の医療施設との連携を、これまで以上に進めていきたいと考えております。かかりつけ医の先生方からご紹介いただければ、可能な限り迅速に診断・治療を行い、その後は地域での生活を続けられるようお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新院長プロフィール

藤原 純 (ふじわら じゅん)

昭和60年 岩手医科大学卒、平成元年同大学院卒

平成4年 盛岡赤十字病院 産婦人科医師

令和3年 盛岡赤十字病院 副院長

令和7年4月より現職



副院長就任挨拶

副院長 **西嶋茂樹**

盛岡赤十字病院副院長を拝命致しました西嶋茂樹と申します。私は麻酔とペインクリニック（難治性の痛みなどに関する治療）を専門としております。当院に赴任以来、麻酔管理を通じて手術の安全性の向上や超音波（エコー）ガイド下神経ブロックなどの新しい分野を導入して手術後の痛み軽減に努め、ペインクリニックでは漢方医療を取り入れて治療の幅を広げるよう努めてまいりました。また、赤十字社との縁も深く当院と以前勤務しておりました赤十字病院とを合わせた勤務年数は25年を超えています。これもなにかの御縁と考えております。

これからは近隣の方々のみならず遠方よりお越しの皆様も利用しやすい「開かれた病院」であり、来院して頂きました皆様にとって安心と信頼感がある、親しみやすい病院であるよう心がけたいと思います。

最後に当院のホームページに「100年の時を経ても変わらぬ思い」とありますように患者様のお役に立ちたい、良い医療を提供したいという思いを高め、個人での努力はもちろん、職員の方々のお力を頂き、良い方向へ向けて歩んで参りたいと思います。



副院長就任挨拶

副院長 **藤原隆雄**

この度、令和7年4月1日付で盛岡赤十字病院副院長を拝命いたしました藤原隆雄と申します。私は盛岡に生まれ、学生時代の数年間を除き盛岡で育ちました。両親ともに盛岡、紫波郡にルーツを持ち生粋の地元民になります。平成5年に医師となり消化器内科医としてもほとんどの時期を岩手県内で過ごしました。当院には平成21年に赴任し、消化器内視鏡分野を主として一般的な胃腸疾患、肝臓疾患、胆膵疾患などの診療にあたってきました。また、災害にも携わることが多く、東日本大震災や昨年の能登半島地震などでは、院内で指揮をとったり現地に赴いて救護や治療を行ったりするなどの活動を行ってきました。今回副院長職の命を受け、今まで培ってきた診療の経験を生かすことはもちろん、院内全体へと視野を広げ、より良き病院を目指したいと考えています。日赤には、「人道・博愛の精神にもとづき、みなさまの生命と健康を守る」という崇高な理念があります。この理念を実践し、これからも地域のみなさんのお役に立てるよう尽力してまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

■連携医療機関のご紹介

高宮消化器科内科医院



当院は1980年に先代院長により開院され、地域の皆様に支えられ今年で開院45年となります。当院では上部内視鏡を用いた早期胃がんの発見、胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎・ピロリ菌の除菌療法、腹部USを用いた肝臓癌や膵臓癌、腎臓癌、前立腺癌、前立腺肥大の早期発見、ウイルス性肝炎の治療等の消化器内科の診療に取り組んでおります。その他一般的な風邪や花粉症、生活習慣病、COPD、気管支喘息、睡眠時無呼吸症等の内科一般の診療を行っております。

院長先生をはじめとする盛岡赤十字病院の各診療科の職員皆様にはご多忙の中、日頃より患者様紹介の際に迅速な御対応を頂き感謝申し上げます。またコロナ渦中には他院で入院を断られた患者様の入院を引き受けて頂きお礼を申し上げます。当地域には必要不可欠な中核となる医療機関であり、今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



待合ホール

- 〒028-3603 矢巾町大字西徳田第2地割106番地3
- TEL：019-697-7030 FAX：019-697-8263
- URL：https://www.takamiya-clinic.net/
- メール：takamiya-iin@wing.ocn.ne.jp
- 診療日（月曜日～土曜日）
診療時間 午前 8:30～13:00（土曜日12:30まで）
午後 14:00～17:45
- 休診日 水曜土曜午後・日曜・祝日

医訪人 その66



薬剤部 薬剤師
福田 健二

こんにちは、薬剤師の福田です。昨年10月にがん薬物療法認定薬剤師に認定されました。認定薬剤師制度は、医療の高度化に伴いより専門的な知識が求められる中で発足されたもので、がん分野はそのひとつです。現在、日本人の2人に1人は一生のうち何らかのがんになると言われています。抗がん剤治療と聞くと吐き気や脱毛をイメージされる方が多いと思いますが、新しいタイプの薬が登場したことにより、副作用も多様化・複雑化しています。まだまだ力不足で表に出る場面は少ないですが、がんと闘う患者さんが少しでも前向きに治療と向き合えるようサポートできたいなと思っています。「がんに詳しい身近な薬剤師さん」を目指して、これからもコツコツと頑張ります。



盛岡赤十字病院

病院HP



当院産婦人科病棟



jrc.morioka_sanka

〒020-8560

岩手県盛岡市三本柳6地割1番地1

Tel.019-637-3111 Fax.019-637-3801

広報誌「なじよだす」Vol.73 令和7年4月1日発行

編集／発行 盛岡赤十字病院広報委員会

藤原 純、川村美奈子、田中 陽子、富岡 幸子
梅村 景太、坂本 亜美、菅原 陽介、寺尾 優紀
齊藤 純子

盛岡赤十字病院

検索 🔍